

令和3年度第1回横手市地域公共交通活性化協議会

日 時 令和3年6月29日（火）14:00～15:30
場 所 横手市役所本庁舎2階 第一会議室

次 第

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 報 告

自家用有償旅客運送「柏木・大森病院線」実証実験期間の実績について 報告①

令和2年度デマンド交通・循環バス・公共交通利用回数券の実績について 報告②

4. 議 事

議案第1号 令和2年度横手市地域公共交通活性化協議会決算について 資料1

議案第2号 令和3年度横手市地域公共交通活性化協議会予算(案)について 資料2

議案第3号 令和4年度横手市生活交通確保維持改善計画(案)について 資料3

5. そ の 他
6. 閉 会



令和3年度第1回横手市地域公共交通活性化協議会 会議録（概要）

- 日 時 令和3年6月29日（火）14:00～15:10
- 場 所 横手市役所本庁舎 2階 第一会議室
- 出席者 委員16名、代理出席3名、随行3名、事務局4名、計26名
- 欠席者 2名

【概 要】

1. 開 会

（冒頭に羽後交通株式会社様より、死亡事故に関する謝罪の発言あり。）

2. 会長あいさつ

人事異動等により新たな顔ぶれも見られる。今年1年間、改めてよろしくお願い申し上げます。

令和2年度は、ご承知のとおりコロナ禍の中での生活となり、重ねて冬季には災害救助法の適用を受けるほどの大雪に見舞われ、住宅被害が250棟、農業被害もビニールハウス2,000棟や果樹関係の被害など、これまでに無いような甚大な被害が出た。とりわけ果樹については1年で復旧復興とはいかず、長いスパンでしっかりとサポートしていかなければならないものとしている。ビニールハウス被害については稲作の苗づくりへの影響も懸念されたが、春には普段どおりの青々とした田んぼの姿が見られ、農家の皆様の奮闘に敬意を表したい。

大雪の中で公共交通においては循環バスの運休も発生し、市民生活に大きな影響を及ぼしたところである。令和3年度はコロナが収束に向けて動いていくことを願うものであるが、ワクチン接種も進んできている状況であり、市民の皆様には是非、すみやかな接種にご協力をいただきたい。

本日は報告2件、議案3件についてご審議いただく。何卒よろしくお願い申し上げます。（横手市 石山副市長）

3. 報 告

（1）自家用有償旅客運送「柏木・大森病院線」実証実験期間の実績について

事務局より資料に基づき説明。その後質疑応答。

Q. 利用人数等の実績は分かったが、利用されている方からの感想など、事務局として住民の声をつかんでいるものがあれば伺いたい。（県交通政策課 吉尾副主幹）

A. 実証実験期間中も地域に入って利用者の声を拾うよう努め、ルート変更などを行った。今後もルート変更等は必要に応じて協議していく考えで、今週金曜日にも地域の会合に入って意見交換する予定としている。今後も住民ニーズの把握に努めたい。（事務局 稲川）

(2) 令和2年度デマンド交通・循環バス・公共交通利用回数券の実績について

事務局より資料に基づき説明。質疑応答は特になし。

4. 議 事

(1) 議案第1号 令和2年度横手市地域公共交通活性化協議会決算について

事務局より資料に基づき説明。

監査委員（代表して佐藤昭逸委員）より会計監査報告。

その後質疑応答。

Q. デマンド交通について積極的に宣伝しているのか。冬に知り合いが横手のホテルに泊まり、3日間私の家と往復したが、その際デマンドを使うよう話したところ、「タクシー会社に電話しても使えないと言われた」という話だった。距離や損得勘定でタクシー会社側がデマンドを断っているということがあってはならないと思うが、事業者側の見解を聞きたい。（雄物川 宇佐美委員）

A. デマンドの運行は各社2台までという規定があるため、依頼のあった時間に既に先約が入っていたという状況だったのではと推察する。各社において予約に対してはしっかり対応しているものと思っているが、今後ハイヤー協会等で集まる機会があれば、ご意見を伝えしっかり対応していくよう確認したい。（ハイヤー協会 佐藤支部長）

Q. 修繕料について支出の中身は。（横手地域 加賀谷委員）

A. ハッピータウンのバス停の修繕を行ったもの。おそらく大型トラックやダンプ車等に接触されて破損したものと思うが、誰に壊されたものか分からなかったため、協議会予算で対応させていただいた。（事務局 稲川）

→ 以上の質疑応答を経て、原案どおり承認。

(2) 議案第2号 令和3年度横手市地域公共交通活性化協議会予算(案)について

事務局より資料に基づき説明。その後質疑応答。

Q. 修繕料の予算について、バス停の破損がもし除雪機械によって壊されたものだとしても協議会予算で直すのか？（大森地域 伊藤委員）

A. 明確に除雪車の作業により破損したものだと分かれば、所管する横手地域課などで修繕の対応をしてもらうべきものと考えているが、今冬の状況としては、直接的に除雪車による破損というよりは、災害級の大雪の中で雪の重み等によるものと考えられるため、協議会予算で対応させていただきたい。（事務局 稲川）

→ 以上の質疑応答を経て、原案どおり承認。

(3) 議案第3号 令和4年度横手市生活交通確保維持改善計画(案)について

事務局より資料に基づき説明。その後質疑応答、意見交換。

- フィーダー系統補助について若干補足させていただく。

P.19 以降の運行経路図の中で、黄色い線で示されている幹線系統は主に市町村をまたいで運行されている系統で、こちらについては県で同じように改善計画を策定して補助申請するもの。この幹線に接続する系統がフィーダー系統となる。幹線が補助対象から外れるとフィーダーも補助から外れることになるが、令和2年度はコロナ禍の中で苦戦している状況があるので、是非皆様には、路線バスに乗っていただき系統の維持にご協力いただければと思う。(県交通政策課 吉尾副主幹)

- 先ほどの話にもあったが、今冬の大雪では横手市だけでなく大曲でも循環バスを運休せざるを得ない状況となった。普段横山の車庫からバスターミナルまでは5分の距離だが、それが1時間かかるような状況となり、朝に出た循環バスが昼になっても帰ってこれないという最悪な状況であった。市とも除雪について協議させていただいたが、ご承知のとおり循環バスは狭い道路をめぐるルートになっており、除雪が思うように進まない状況であったため、ご利用の皆様には大変なご迷惑をおかけしてしまった。

大仙市では昨年10月に循環バスのルート変更を行っており、大きな道路を通るルートになっているところもある。横手市とも今後そういった協議をしていければと考えているので、よろしくお願ひしたい。(羽後交通 井上取締役)

- 本協議会においては、利用者の利便性向上ということと共に、安全安心の確保ということも是非ご確認いただきたい。羽後交通様の路線バスであれば、規定に基づき安全な場所にバス停が設けられているが、自家用有償旅客運送の場合はそこまでの規定がない中で市町村において停留所を設定いただいていると思うし、デマンド交通の場合ではどこでも乗り降りできるということにより一層そういった面での安全確保が求められる。是非そういった観点を忘れずに今後も安全安心な運行について皆さんでご確認いただきたい。(秋田運輸支局 鈴木専門官)

- 限られた予算と事業者様の負担の中で事業を実施いただいているものと認識している。こういった様々な取り組みが高齢者の事故防止にもつながっているものであり、引き続きご尽力をお願いしたい。

管内の数字としては、人身事故の件数は半減しているが、事故の件数そのものはほぼ変わっていない。診断書を出すか出さないかの違いだけである。高齢者の免許返納については、ご家族がどのタイミングで返納したら良いか相談を受けることもあろうかと思う。もしご家族が知らないうちに車に傷がついているようなことがあれば、それが返納のサインである。是非事故防止のためご協力をお願いしたい。(横手警察署 森川課長)

- Q. 循環バス等、羽後交通様における運転手の採用状況や、人材が不足している等の状況があれば、実態をお聞かせ願ひたい。(横手地域 加賀谷委員)

A. 日本全国のバス会社において、運転手不足は深刻な状況である。弊社でも現在、前年同時期に比べマイナス10名という状況にある。今日1人面接があり、先月も1人面接しているが、毎月応募者がいるわけではなく、年に4～5人採用できても、一方で辞める人もいる。健康を理由に辞める場合は引き留めるわけにいかない。視力・聴力や適性診断の結果にパスすれば、70歳で現役というケースもないわけではないが、やはり安全運行第一の考えで、相当に気を遣いながら運転手の確保にあたっており、慢性的な人材不足は深刻さを増している。

なかなか若い人で運転手になりたいという人がいない現状の中、高校生向けのPR等も行い、おとしに一人、高校新卒で採用した方がいる。二種免許が21歳以上ということで現在は整備士の仕事をしてもらっているが、運転手になりたいという意欲をもっているので期待している。皆様のお知り合いでももし運転手をやってみたいという方がいたら、是非お声がけをお願いします。(羽後交通 井上取締役)

- 関連して、運輸支局としては整備士の人材不足も深刻になってきていると認識している。小さな頃から興味を持ってもらえるよう、秋田市ではバス祭というイベントを実施するなどしている。運転手や整備士といった仕事に興味を持って考えてもらえるように、今後も連携して若い方々へのPRに努めたい。公共交通が地元からなくなってしまっは大変なので、様々な形で人材確保や支援に取り組んでいければと思っている。(秋田運輸支局 鈴木専門官)

→ 以上の質疑応答を経て、原案どおり承認。

5. その他

特になし。

6. 閉会

以上。